

# 資料集



# 第1章

## 市民からの意見

### 1 市民アンケート調査

令和元年度市民アンケート調査では、本市にお住いの1,500人を無作為抽出し、回答いただいた以下5つの調査項目について分析を行い、結果を第4次総合計画策定の参考としました。

■調査期間 令和元年7月から令和元年8月まで

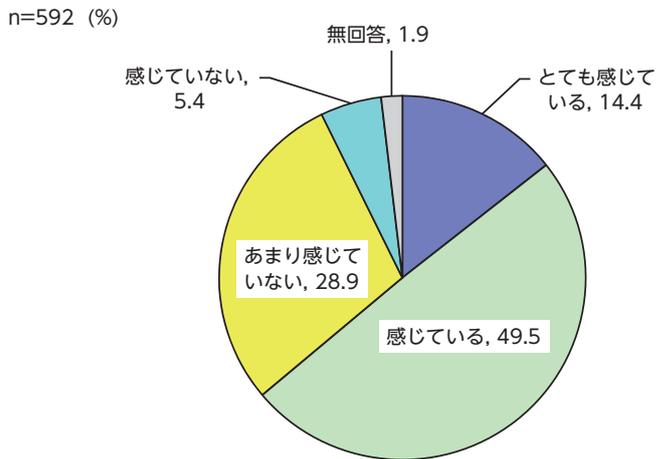
■回答数 592票 回答率39.5%

#### ■調査結果概要

##### ①市に対する愛着度

設問 東金市に「わがまち」といった愛着や親しみを感じていますか。

“感じている”が63.9%、“感じていない”が34.3%。

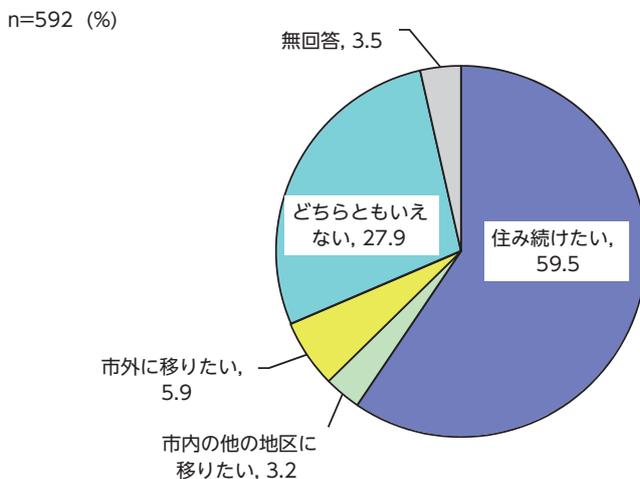


「とても感じている」と「感じている」の割合が6割を超えます。性別では、男性が67.5%、女性が62.6%と、男性の方がやや高くなっています。年齢では、80歳以上(78.7%)が最も高く、概ね年齢層とともに愛着度が上昇する傾向がみられます。

##### ②今後の定住意向

設問 これからも現在のお住まいに住み続けたいと思いますか。

「住み続けたい」が59.5%、「移りたい」が9.1%。



約6割が「住み続けたい」と回答。性別では、男性(62.1%)が女性(59.4%)よりも高くなっています。また年齢層では80歳以上(84.0%)は8割を超える一方、20歳代では36.8%と他の世代に比べ低く、「市外に移りたい」と答えた人が10.5%となっています。

③まちの各環境に関する満足度

設問 市の各分野の「現状の満足度」

第3次総合計画における主要施策の満足度

満足度が高い項目

- 第1位 「生涯学習・生涯スポーツの推進」
- 第2位 「家庭ごみの処理・リサイクル」
- 第3位 「広域行政」
- 第4位 「学校教育の充実」
- 第5位 「保健・医療の充実」

満足度が低い項目

- 第1位 「公共交通の充実」
- 第2位 「商業・サービス業の振興」
- 第3位 「良好な市街地の形成」
- 第4位 「地方創生の実現に向けて」
- 第5位 「効果的・効率的な行政運営」

④まちの各環境に関する重要度

設問 市の各分野の「今後の重要度」

第3次総合計画における主要施策の重要度

重要度が高い項目

- 第1位 「保健・医療の充実」
- 第2位 「公共交通の充実」
- 第3位 「学校教育の充実」
- 第4位 「子育て支援」
- 第5位 「高齢者施策の充実」

⑤将来に向けて目指すまちづくりのイメージ

設問 東金市が将来に向けて目指すまちづくりは、どのような方向性がふさわしいと思いますか。

将来の東金市の目指すべき都市像。

将来に向けて目指すまちづくりのイメージ

- 第1位 「安全・安心なまち」
- 第2位 「高齢者への保健・福祉が充実したまち」
- 第3位 「市内交通ネットワークが便利なまち」
- 第4位 「子どもや親への保健・福祉が充実したまち」
- 第5位 「交通が発達した他地域と容易につながるまち」

## 2 転入・転出者アンケート

市民課窓口において、転入届・転出届を提出する人に、転入者へは「居住地を決めた主な理由は」、転出者には「東金市に不足していた点」等を聞きました。

■調査期間 令和元年7月8日から令和元年11月15日まで

■回答数 転入者 254 票 転出者 302 票

■調査結果概要

転入者調査 居住地を決めた主な理由		転出者調査 東金市に不足していた点	
1位 通勤・通学に便利	(18.7%)	1位 交通が不便	(45.1%)
2位 家・土地がある	(18.4%)	2位 買い物が不便	(13.3%)
3位 住宅価格・家賃が手ごろ	(12.4%)	3位 防災面・防犯面で不安	(8.4%)
転入者調査 転入後の通勤・通学先		転出者調査 転出後の住まい	
1位 東金市内	(31.1%)	1位 県外	(28.8%)
2位 通勤・通学していない	(21.3%)	2位 県内（千葉市、山武地域除く）	(27.5%)
3位 千葉市内	(12.6%)	3位 千葉市	(23.2%)
		4位 山武地域内	(12.6%)

転入者に聞いた東金市へ居住地を決めた主な理由としては、「通勤・通学に便利」という回答が最も多く、続いて「家・土地がある」との回答でした。なお、転入後の通勤・通学先については、「東金市内（31.1%）」、「通勤・通学していない（21.3%）」、「千葉市内（12.6%）」という結果でした。

また、転出者に聞いた東金市に不足していた点では、交通の利便性が低いことや、商業的な環境や安全・安心の面で満足度が低いことが伺えました。なお、転出後の住まいは、「県外へ（28.8%）」、「千葉市や山武地域を除いた県内市町村へ（27.5%）」、「千葉市内へ（23.2%）」、「山武地域内へ（12.6%）」という結果でした。

### 3 地区別懇談会結果

各地区（12 地区）で懇談会を開催し、地域住民が本市の強み、弱みをどのように感じ、どのような市の将来像を望んでいるかを直接伺うために開催しました。（第 1 回）

■開催期間 平成 31 年 1 月 29 日から平成 31 年 2 月 22 日まで

■開催場所 市内を 12 地区に分けて各地区公民館等で開催

また、上記懇談会での意見を踏まえ、令和 2 年 1 月時点での策定状況を説明し、さらに意見を求めていくため懇談会を開催しました。（第 2 回）

■開催期間 令和 2 年 1 月 23 日から令和 2 年 2 月 25 日まで

■開催場所 市内を 12 地区に分けて各地区公民館等で開催

■代表的な意見

東金地区
第 1 回 参加人数 40 名（男性 35 名 女性 5 名） ・バスターミナルや中心市街地の公共施設の一体的整備検討により市街地の賑わいを創出してほしい。 ・成田空港、千葉港などが近く、首都圏中央自動車連絡道の供用開始などポテンシャルの高さ、強みを活かしてほしい。 ・道路網の強みを活かした企業誘致、自然環境と都心からの距離的メリットを活かした住宅整備などへ注力してほしい。
第 2 回 参加人数 14 名（男性 13 名 女性 1 名） ・中心市街地や市街地活性化など、今は暗いイメージがあるが、明るい雰囲気になれば新しい住民が増えると思う。 ・防災・減災の東金市を目指してほしい。 ・駅を降りてよい街だというイメージが着けば、人口減少の歯止めにもつながると思う。

日吉台地区
第 1 回 参加人数 18 名（男性 14 名 女性 4 名） ・他地域との交通アクセスに地理的優位性がある。首都圏中央連絡自動車道全面供用が更なる発展の好機を捉えたまちづくりをしてほしい ・中心市街地の老朽化・魅力が不足している。「駅を中心とした魅力的なまちづくり」が必要である。 ・市民、来訪者双方に公共交通が脆弱である。鉄道・バスなどの公共交通体系の見直し・利便性の向上をしてほしい。 ・企業誘致が最重要。雇用創出、ひいては税収のアップにつなげる。
第 2 回 参加人数 17 名（男性 9 名 女性 8 名） ・公共交通の利便性が重要となる。電車は少なくともバスで大綱、成東まで出られるようにしてほしい。 ・企業誘致や移住の呼びかけで人口を増やすことは必要になる。 ・日吉台は今後開発の余地もない。利便性が高くないと自然環境だけでは続かないと思う。

<p>田間地区</p> <p>第1回 参加人数 21名 (男性 18名 女性 3名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速バス路線に強みがある。鉄道の脆弱性をバスターミナル整備など、強みを伸ばしカバーすることが必要である。</li> <li>・大学、高校、警察学校など学校（教育施設）と学生が多い。学生と連携したまちづくり有効だと思う。</li> <li>・城西国際大学、東千葉メディカルセンターの存在が強みとなる。市・地域と密接に連携し、ともに育つことが必要である。</li> <li>・東金駅前からバイパスの一体的な中心市街地を整備しえて市街地の魅力アップが必要である。</li> <li>・学校・地域の密接な関わりが重要である。両者の関わりで子どもを地域が共に育てていくまちにしてほしい。</li> </ul> <p>第2回 参加人数 34名 (男性 32名 女性 2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の人材有効活用施策も進めてほしい。</li> <li>・城西国際大学、成田空港があるので国際都市という位置付けがあってもいいと思う。</li> <li>・地域自治が確立していないと、地域と行政の連携ができないと思う。</li> </ul>
<p>嶺南地区</p> <p>第1回 参加人数 47名 (男性 38名 女性 9名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内3駅の駅前整備が未成熟である。「まちの玄関口」の整備・魅力向上が必要である。</li> <li>・子どもを育てやすいまちにしてほしい。借金しても「子どもを育てる」施策をしてほしい。</li> <li>・親・子、地域を巻き込んだ市政運営をしてほしい。</li> <li>・首都圏中央連絡自動車道、千葉東金道路など交通網の地域拠点となるので、他地域とのアクセスに地の利があると思う。</li> </ul> <p>第2回 参加人数 19名 (男性 19名 女性 0名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致について、人口減少社会から雇用が難しく人が集まらないのではないかと思う。</li> <li>・農業の後継者不足は大きな問題である。集約化、企業化が必要だと思う。</li> <li>・高齢者の労働力を活かしてほしい。</li> </ul>
<p>城西地区</p> <p>第1回 参加人数 35名 (男性 35名 女性 0名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的な扶助費抑制につなげるため健康寿命の延伸施策が重要である。図書館の利用率向上など認知症予防に注力してほしい。</li> <li>・子育て世代を大切に将来像を描き、子育て支援の明確なビジョンを示すべきだと思う。</li> <li>・農業もまちの活力である。支援策の充実をしてほしい。また小規模起業の支援などきめ細やかな取り組みが必要である。</li> </ul> <p>第2回 参加人数 22名 (男性 21名 女性 1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政的な支援を含めて、子育てしやすい環境づくりをしてほしい。</li> <li>・首都圏中央自動車連絡道の入り口に企業を呼び込むこともすべきである。</li> <li>・地域とともに手を携えて歩むとした手段で、地域づくり・コミュニティとの連携は不可欠だと思う。</li> </ul>

公平地区
<p>第1回 参加人数 17名 (男性 15名 女性 2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道・バスなど公共交通が脆弱である。免許自主返納後の生活不安なので充実させてほしい。</li> <li>・市域の垣根を払い隣接市町との連携を強化し、発展可能性のあるまちづくりをしてほしい。</li> <li>・道路網や九十九里浜などの観光資源を持ち、ポテンシャルが高いと思う。商業施設・工業施設の誘致が有効だと思う。</li> <li>・行政職員の地域理解を醸成することと、更なる地域振興をしてほしい。</li> </ul>
<p>第2回 参加人数 21名 (男性 20名 女性 1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東金市のポテンシャルとしては天然ガスもある。天然ガスを有効利用するアイデアがほしい</li> <li>・スポーツの習慣をつけ、介護・医療費を削減することが必要である。</li> <li>・他市町村と連携してほしい。</li> </ul>
丘山地区
<p>第1回 参加人数 25名 (男性 25名 女性 0名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧道沿い空き店舗が目立ち、賑わいとまちの魅力が減退している。対策が必要である。</li> <li>・児童・生徒数が減少している。学校施設等の統廃合・民営化など効率的な利活用をしてほしい。</li> <li>・道路網の優位性による高速バスの充実がある反面、自宅からバス停までなどきめ細やかな公共交通が脆弱である。</li> <li>・パーク&amp;ライド等バスターミナル整備による、都心通勤者の受入れ・確保＝社会増を実現してほしい。</li> <li>・道路網・JCTなどポテンシャル高い地域である。工業団地の更なる整備、商業施設誘致などが効果的。</li> </ul>
<p>第2回 参加人数 17名 (男性 17名 女性 0名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東金の街を元気にするには、市内商業施設を市民が利用して地域で育てるという観点が欠落している。</li> <li>・東金 JCTはこの地区のメリットであり、東金の出入り口である。海客の帰りなど、他県の方に寄ってもらえる商業施設があればいいと思う。</li> <li>・認定こども園化を進め民営化してほしい。</li> </ul>
大和地区
<p>第1回 参加人数 57名 (男性 36名 女性 21名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの顔である東金駅を中心とした中心市街地の活性化・高魅力化が必要である。</li> <li>・道路交通網に強みがある。その優位性を活用し、企業誘致施策に注力することで財政面・人口減少対策に活路を見出してほしい。</li> <li>・買い物難民、通院難民が増えている。公共交通の充実が急務だと思う。</li> <li>・更なる高齢化は必至である。看護・介護の切れ目ない提供により高齢者が暮らしやすく、老後を全うできるまちにしてほしい。</li> <li>・高齢者支援課、健康増進課の健康寿命延伸施策について更なる充実とPRが肝要だと思う。</li> </ul>
<p>第2回 参加人数 30名 (男性 25名 女性 5名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致に力を入れるべきだと思う。</li> <li>・高齢者が遊べてお金を落とすような、観光も併せた施設が必要である。</li> <li>・子育てしやすい東金市、これを前面に出してほしい。</li> </ul>

正気地区
<p>第1回 参加人数 59名 (男性 56名 女性 3名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康寿命延伸施策が肝要なので、充実した健診体制をさらにPRすべきだと思う。</li> <li>基幹産業たる農業後継者・担い手の確保が必要である。</li> </ul>
<p>第2回 参加人数 38名 (男性 36名 女性 2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正気地区と中心市街地をつなぐ公共交通がない。東金アリーナや広域斎場などの公共施設もあるので、公共交通体系も見直してほしい。</li> <li>九十九里浜は観光地として良いところなので、市域を超えた観光面での連携が肝要である。</li> <li>東千葉メディカルセンターの将来像を明確にしてほしい。</li> </ul>
豊成地区
<p>第1回 参加人数 26名 (男性 24名 女性 2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都心までの距離・首都圏中央自動車連絡道全面供用など道路網に強みがある。反面、鉄道が弱みとなる。公共交通の充実で若者の流出を防止してほしい。</li> <li>災害が少なく、災害に強いことを売りにした宅地開発や基盤整備により、人口流入を促進できると思う。</li> <li>城西国際大学は財産であり、グローバルな視点からの企業誘致のために連携・活用してほしい。</li> <li>地区まちづくり協議会の設置など、地域のまとまりを維持・強化してほしい。行政と地域の密接な連携が肝要である。</li> </ul>
<p>第2回 参加人数 27名 (男性 26名 女性 1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集客、魅力のある街づくりを進めるべきであると思う。</li> <li>高齢者の孤独の問題、高齢者福祉に力を入れてほしい。</li> <li>地元の災害情報をいち早く知ることは重要である。今後、情報伝達手段の整備に力を入れてほしい。</li> </ul>
福岡地区
<p>第1回 参加人数 27名 (男性 24名 女性 3名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地と離れた福岡地区の生活利便性は低い。中心市街地との連結だけでなく、隣接市町との連携を検討してほしい。</li> <li>歴史的に商いの要衝地域なので、歴史・地理的優位性を研究・活用しまちづくりが必要である。</li> <li>東千葉メディカルセンターの産科オープンは強みである。子育て支援充実により若年世代の移住にも期待できると思う。</li> <li>医療費・教育費の優遇など子育て世代に選ばれる「子どもを育てやすいまち」にしてほしい。</li> <li>鉄道は脆弱であり、利便性向上可能性は低い。高速バスや市内路線バスの充実など、別方向で公共交通を充実してほしい。</li> </ul>
<p>第2回 参加人数 27名 (男性 24名 女性 3名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画には災害に対する対策を盛り込む必要があると思う。</li> <li>高齢化率が高くなっていくので、介護施設を中心に集約を図っていくまちづくりを進めていくべきだと思う。</li> <li>子育てのしやすいまちづくりを考えてほしい。</li> </ul>

源地区
<p>第1回参加人数 17名 (男性 16名 女性 1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通体系 (JR 等) の充実が急務である。</li> <li>・交通網メリットを活用した大都市へ出荷可能な近郊農業に強みがある。農業発展という大きな戦略を掲げるべきだと思う。</li> <li>・企業が少なく、小さい。市内雇用の場として大企業を誘致し、就労者・生産年齢人口、人口自然増を目指すべきだと思う。</li> </ul>
<p>第2回参加人数 21名 (男性 21名 女性 0名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稼ぐことを考えることは非常に重要である。企業誘致も東金にお金が落ちるような企業誘致が望ましいと思う。</li> <li>・土地利用の方向性について、源地区の位置付け・役割が見えてこない。</li> <li>・源小学校の統合により地域の核が消滅する。新しい核を作らないと、地域としての機能が失われることになりかねず早急に対応する必要がある。</li> </ul>

以上の意見より、各地区を通じて道路交通網に強みがあり、都心・他地域とのアクセスや、それを活かした企業誘致などの施策に期待していることを把握しました。

また、歴史・文化、観光資源などにも恵まれており、それらを活用した人の呼び込み、賑わい創出が東金市の発展に寄与するという意見が多数ありました。

反面、全ての地区で鉄道に代表される公共交通の脆弱性は指摘されています。また、東金駅を中心とする市街地の魅力の減退が弱みと感じる方が多く、それらの弱みの克服が本市の魅力づくり、発展に欠かせないという意見が多く出されました。

## 4 商工団体 意見交換結果

本市で自営業や会社経営をする人たちを中心とした商工団体（東金商工会議所）との意見交換により、特に商業面で経営者が本市の強み・弱みをどのように感じ、目指すべき将来像をどのように考えているかを計るために開催しました。

■開催期間 平成31年3月3日

■開催場所 サンピア3階 サンピアホール

■参加人数 25名（男性23名、女性2名）

■代表的な意見

### 強み

- ・自動車・バスによる都心とのアクセスが良好で、交通の結節点として発展した歴史もある。
- ・近隣に九十九里浜があり、観光資源として大きい。市域を超えた連携と活用をしてほしい。
- ・都心からそれほど遠くなく、自然豊かな地域である。
- ・城西国際大学、高校など多くの教育機関があり、若者が多く集まるポテンシャルを持っている。
- ・歴史・文化的遺産が多くあり、観光資源としても活かせる。
- ・成田空港至近で国際化に伴いインバウンドの取り込みに優位性がある。

### 弱み

- ・JRに代表される公共交通が弱点であり改善が必要である。

### 将来像

- ・東金駅周辺（中心市街地）の開発によるまちの活性化が必要である。
- ・地域の拠点都市として九十九里地域一体として考えた将来を描くべきだと思う。
- ・民間活動が活発な時代。行政と民間、市民が一体となったまちづくりを目指すべきだと思う。
- ・市の取組みの方向性を重点化・特化しわかりやすい総合計画にしてほしい。
- ・学校を卒業した世代が出ていかない、一度出て戻るとまちを目指したい。若者の愛着の醸成が必要である。

以上の意見より、観光、伝統、学校や地の利などのポテンシャルは高いとの認識がわかるが、公共交通体系の脆弱性により、まちの発展に課題を感じている経営者が多いことが把握できます。

## 5 農業関係者 意見交換結果

本市の農業について、農業を営む市民（東金市農業振興会）との意見交換を実施し、農業従事者の視点から強み、弱みなどの意見をいただきました。

■開催期日 令和元年7月3日

■開催場所 市役所5階会議室

■参加人数 5名（男性4名、女性1名）

■代表的な意見

- ・温暖な気候、平野部という地理的な利点がある。それらを活用した営みやすい農業にしていくべきだと思う。
- ・災害が少ない地域であり、農業の将来性は高い。強化・活性化すべきだと思う。
- ・道の駅みのりの郷東金の存在は強みである。退職後の帰農者も多くいる。道の駅と農業の連携をさらに強みとするべきだと思う。
- ・農業従事者の減少、後継者不足に危機感を持っている。

以上の意見より、農業従事者は「道の駅みのりの郷東金」の存在、気候や地形的など、農業面での利点を活かし・伸ばすことを望んでおり、強みでもあると考えていることを把握した反面、農業従事者、後継者・担い手の減少には歯止めがかからず危機感を覚えていることがわかりました。

## 6 若者との意見交換結果

本市の次世代を担う若年層が考える強み・弱み、目指すべき将来像を、20歳を迎える年齢層から概ね30歳までの公募した市民から聞き取り第4次総合計画策定の参考とするために開催しました。

■開催期日 令和元年8月25日

■開催場所 市役所401会議室

■参加人数 12名（男性8名、女性4名）

■公募方法 広報、ホームページ、成人式実行委員会・消防団などへの呼びかけ

■代表的な意見

### 強み

- ・観光資源豊富で近隣市町に比べ優位性を持っている。
- ・自然豊かでゆとりある生活が可能だと思う。
- ・大学や高校、各種専門学校の立地など、教育資源が豊富である。
- ・歴史・文化の香りあるまちであり、この地域で伝統的に発展してきたポテンシャルがある。
- ・商業施設（特に飲食店）が多くあり人が集まる要素がある。
- ・首都圏中央連絡自動車道や千葉東金道路の結節点で道路網に強みがある。高速バス路線などの充実により発展可能性があると思う。

### 弱み

- ・抜きに出た「強み」や「知名度」に乏しい。
- ・鉄道路線が脆弱・利便性が低い。公共交通の強化が必要だと思う。若年層は住みづらい。
- ・子育て支援へ更なる注力が必要だと思う。
- ・安全・安心、治安への不安がある。
- ・東金駅周辺を中心にまちの賑わいが減退しており、都市としての魅力が乏しい。

以上の意見より、特に地の利、道路網のポテンシャルは高く発展可能性が高いという認識であるが、「まちの顔」である東金駅付近（中心市街地）の賑わいや都市的な魅力が乏しくと、鉄道路線の利便性の低さの解消を本市の発展課題と捉えていることがわかります。

## 7 大学・高校生 意見交換結果

市内に存する城西国際大学、東金高校、東金商業高校、千葉学芸高校に通う学生が考える強み、弱み、目指すべき将来像など、将来を担う世代に自分が大人になったときにどんな東金市を望むかを聞き取るために開催しました。

■開催期日 令和元年 10月23日

■開催場所 城西国際大学 水田記念図書館内オリエンテーションルーム

■参加人数 学生40名（男性26名、女性14名）、大学職員3名

■開催期日 令和2年1月9日

■開催場所 千葉県立東金商業高等学校 大会議室

■参加人数 生徒11名（男性3名、女性8名）

■開催期日 令和2年1月29日

■開催場所 千葉県立東金高等学校 会議室

■参加人数 生徒28名（男性9名、女性19名）

■開催期日 令和2年1月31日

■開催場所 千葉学芸高等学校 大会議室

■参加人数 生徒13名（男性7名、女性6名）

### ■代表的な意見

#### 強み

- ・自然豊かでのんびりしたちょうどいい田舎感があり、子育てでも外遊びしやすい地域だと思う。
- ・充実した医療を提供する東千葉メディカルセンターの存在は強みである。
- ・産科も開設し、子どもから大人まで一貫して地元で生活ができる市だと思う。
- ・城西国際大学、高校など多くの教育機関があり、若者が多く集まるポテンシャルを持っている。
- ・アリーナや文化会館などの大きなイベントができる施設を持っているのは強みである。様々なイベントを開催すべきだと思う。

#### 弱み

- ・市内に雇用（就職先）が少ないのが弱みである。就職のために流出してしまうと思う。
- ・鉄道をはじめ、交通面で利便性が低い。自動車がないと移動ができないまちである。
- ・買い物をする場所や娯楽施設など、若者が求める施設がなく不便である。
- ・安全・安心の面で不安がある。災害対策、治安維持に注力してほしい。
- ・行政の取り組みや、東金市の良さをPRすることが下手と感じる。情報の的確な発信をしてほしい。
- ・賑わい・魅力のない駅周辺は弱みである。高校は全て西口側にあるので西口にもコンビニなどがあるとよいと思う。
- ・西口のシャッター街化は改善できないなら、シャッターアートなどで町おこしをしてほしい。
- ・まちのシンボリック存在や特産品がなく、特徴・知名度が乏しいと思う。

#### 将来像

- ・生まれ育った人が居続けられる持続可能なまちにしてほしい。
- ・学生から働き盛りの年代まで、幅広い年齢層が住めるまちにしてほしい。
- ・千葉や都心に通学が可能なのでベッドタウン化も一つの方向性だと思う。
- ・大きなイベントを通じて、一体感のある街を目指してほしい。
- ・他市町村と差別化を図り、「東金と言えばこれ」という取組みをするまちにしてほしい。
- ・農業が盛んなのは理解するが個人農業は限界だと思う。企業営農にしていくことが有効である。
- ・歴史、伝統文化の良い部分を発信できていない。上手にPRして有名なまちを目指してほしい。
- ・高齢者にやさしい公共交通体系を持つまちになってほしい。
- ・企業誘致により人、家族、家族の出かける場所が立地する。まずは企業が立地しやすい取組みをしてほしい。

以上の意見から、鉄道をはじめとする公共交通の脆弱性などについては通学だけでなく、アルバイトや娯楽で自動車を使用せずに他地域と往来する若年層ならではの考えも見受けられました。

また、街の魅力・賑わいの減退について弱みとしているものの、シャッターアートの導入など、若者の感性での提案がありました。

生まれ育った人がこの地域で居続けられるような持続可能なまちを望む声もあり、弱みを克服することにより、若者の流出を防ぐことや、将来的な定住にもつながる意見が多数出されました。

## 8 東金市総合計画策定市民会議 意見交換結果

第4次総合計画を策定するに際し、市民意識を組み込んだ計画とするため、公募により組織した市民会議が目指すべき将来像について研究し、研究結果について市への提言がありました。

提言された市の将来を考える市民の率直な思いを踏まえ第4次総合計画を策定していきます。

■開催期間 令和元年7月3日～令和2年2月3日（全7回開催）

■参加人数 20名（公募市民13名、各種団体活動の経験者4名、市職員3名）

(敬称略)	子ども・教育部会	産業・観光部会	地域・交流部会	
部会長	布留川 秀樹 (副会長)	高科 雄一郎	勝田 博昭	
副部会長	三枝 利子	市東 義洋	宮原 政志	
書記	大場 あすか	小倉 文江	光武 誠吾	
委員	小林 史枝 光武 絵理奈 吉野 正弘	石飛 雅敏 小川 喜晴 森 ちあき	天野 誠 池田 靖彦 伊藤 晃徳	江澤 孝佳 鈴木 豊和 (会長)

### ■提言の要旨

#### 子ども・教育部会からの提言

- ・東金市としての特色を出し、「子育てがしやすい街」を構築めざすための総合的な『子育て支援センターの創設』
- ・よりよい教育が享受できる街のための『小中一貫校の誘致』

#### 産業・観光部会からの提言

- ・東金市フィルムコミッションを設立する。
- ・東金の魅力あるツアーの実施・東金の名産発掘
- ・遊休不動産を活用してリノベーションを起こし移住促進
- ・西口商店街、祭りの活性化、情報発信力の強化
- ・防災対策の強化、交通不便の解消

#### 地域・交流部会からの提言

- 地域・交流に関する実態把握
  - ・地域交流に関する実態を把握するため、信頼性のある調査を行ったうえで、施策を実行する。
  - ・区ごとの課題抽出のため、視覚的にわかりやすく地域課題を整理し、市民へ情報提供する。
  - ・施策効果の定期的な検証。
- 地域・交流に関する多様な情報発信方法の確立
  - ・ICTを活用した情報発信方法を確立する。
- ふれあい館を核とした持続可能で創造的な地域交流の活性化
  - ・地区公民館などの地域交流機能をアップデートした『ふれあい館』整備。
  - ・地域コーディネーターの育成。
- 地域の歴史的偉人や公共施設の見学による地域への愛着の涵養
  - ・郷土を知るための催しの企画。

## 9 総合計画策定若手職員プロジェクトチーム 意見交換結果

第4次総合計画を策定するに際し、市役所若手職員（概ね40歳くらいまで）18名により、プロジェクトチームを設置し、時代に即した行政感覚からこれまでの取組みの検証や、目指すべき将来像、それに伴う施策などの提言がありました。

次の時代の行政を担う提言の内容を踏まえ第4次総合計画を策定していきます。

■開催期間 令和元年7月4日～令和元年12月18日（全6回開催）

■参加人数 18名（男性10名、女性8名）

■提言の要旨

- 1 子どもたちが今後も住み・働き・愛着を持つための「子育て支援」
  - (1) 特色のある公園や、子どもたちが安心して遊べる屋内施設の設置
  - (2) 子どもを安心して預けられる「寺子屋学童」の推進
- 2 将来の東金市・地域を担う人材を育てるための「教育」
  - (1) 一貫教育施設の設置
  - (2) 地元の豊かな食材を利用し、食育に特化した学校給食の提供
  - (3) 学生チューター制度・塾チケット配布等による基礎学力の底上げ
- 3 住みやすく魅力的なまちづくりのための「都市基盤整備」
  - (1) 民間施設と公共施設の一体的整備
- 4 市役所と市民がともにまちを作っていくための「地域のあり方」
  - (1) 各地区公民館の中心市街地とのハブ化・地域拠点性の強化
  - (2) 地域学習・世代間交流機会の創出による地域意識の継承
- 5 利便性の高い街を目指すための「公共交通」
  - (1) 市域を越えた乗り合いタクシーの運用
  - (2) 子どもタクシーの創設
- 6 効果的・効率的な投資により、街を発展させる「行政改革」
  - (1) 施策・施設の断捨離
  - (2) やること・やらないことの明確化
  - (3) 行政人材の徹底した育成とエキスパート化

## 第2章

# 東金市総合計画審議会

### 1 東金市総合計画審議会条例

昭和 60 年 3 月 7 日条例第 1 号

東金市総合計画審議会条例

(設置)

第 1 条 本市に、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の 4 第 3 項の規定により、東金市総合計画審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第 2 条 審議会は、市長の諮問に応じ、東金市総合計画に関する事項について調査及び審議する。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 25 人以内で組織し、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 市議会議員
- (2) 学識経験者
- (3) 関係行政機関の職員及び公共的団体等を代表する者
- (4) その他市長が必要と認める者

2 委員の任期は、2 年とし、再任されることを妨げない。ただし、委嘱時に前項第 1 号又は第 3 号の職であつた委員が当該職を離れた時は、同時に委員の職を失う。

3 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第 4 条 審議会に、会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 5 条 審議会は、必要に応じ会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(補則)

第 6 条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営について必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 11 年 3 月 30 日条例第 7 号）

この条例は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

## 2 東金市総合計画審議会委員名簿

(敬称略)

### 第1号委員 市議会議員

東金市議会議員長 小倉 治夫  
 総務常任委員長 石田 明  
 文教厚生常任委員長 相京 邦彦  
 建設経済常任委員長 佐竹 真知子

### 第2号委員 学識経験者

城西国際大学教授 七井 誠一郎  
 千葉学芸高等学校校長 高橋 邦夫  
 元国土庁地方都市整備課長 秋口 守國  
 元千葉県県土整備部次長 久保田 暉  
 元千葉県県土整備部理事 飯田 宏行  
 元千葉市総合政策局長 川上 千里

### 第3号委員 関係行政機関の職員及び公共的団体等を代表する者

東金市農業委員会会長 細谷 修  
 (R2.9 退任)  
 同 上 池田 繁雄  
 (R2.9 委嘱)  
 東金市教育委員会委員 石田 絢子  
 東金商工会議所会頭 小川 秀二  
 (R2.11 退任)  
 同 上 前嶋 康夫  
 (R2.11 委嘱)  
 東金市観光協会会長 神定 一雄  
 東金市社会福祉協議会会長 真行寺 洋男  
 東金市区長会連合会会長 三須 芳雄  
 東金市青少年相談員連絡協議会副会長 森川 良  
 東金市民生委員児童委員協議会主任児童委員 京僧 久美子  
 東金文化スポーツ振興財団理事長 中里 重幸  
 山武郡市広域行政組合消防長 佐久間 健  
 (R2.4 退任)  
 同 上 中村 喜和  
 (R2.4 委嘱)  
 千葉県山武地域振興事務所所長 白井 隆雄  
 (R2.4 退任)  
 同 上 笹生 健司  
 (R2.4 委嘱)

### 第4号委員 その他市長が必要と認める者

東金商工会議所工業部会部会長 橋本 博典  
 株式会社千葉銀行東金支店長 大西 達也  
 株式会社千葉日報社東金支局長 堀井 研作  
 千葉県税理士会東金支部 鈴木 康成

## 3 審議経過

回数	開催日	会議内容等
1	R2.2.13	・委員の委嘱 ・市からの諮問(177ページ) ・第3次総合計画の総括 ・次期総合計画の策定方針 ・次期「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について
2	R2.3.27	・東金市第4次総合計画 総論編・基本構想編(案)について ・東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間延長について
3	R2.9.16	・東金市第4次総合計画 総論編・基本構想編(案)について
4	R2.10.13	・東金市第4次総合計画 総論編・基本構想編(案)について ・答申書(案)について
—	R2.10.14	・東金市第4次総合計画(総論編・基本構想編)について答申(178ページ)
5	R2.11.19	・東金市第4次総合計画 前期基本計画編(未定稿)について
6	R2.12.24	・東金市第4次総合計画 前期基本計画編(案)について
7	R3.1.18 ※書面開催	・東金市第4次総合計画 前期基本計画編(案)について
8	R3.2.4 ※書面開催	・答申書(案)について
—	R3.2.25	・東金市第4次総合計画(基本計画編)について答申(179ページ)

※第7回、第8回は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が千葉県に発令されたため、書面開催とした。

## 4 諮 問

東企企第166号  
令和2年3月27日

東金市総合計画審議会  
会長 久保田 曄 様

東金市長 鹿間 陸郎

### 東金市第4次総合計画基本構想及び基本計画について（諮問）

東金市総合計画審議会条例（昭和60年東金市条例第1号）第2条の規定により、下記のとおり諮問します。

#### 記

##### 1 諮 問

東金市第4次総合計画基本構想及び基本計画について、貴審議会の意見を求めます。

##### 2 趣 旨

本市では、平成12年度に計画期間を20年とする「東金市第3次総合計画」を策定し、「人・自然 ときめき交感都市 東金」という将来像の実現に向け、市民とともに様々な取組みを積極的に推進し、市民生活の全分野にわたる多くの施策を着実に進めてきました。

しかし、この20年間において、わが国では少子高齢化等により、日本全体の人口が初めて減少に転じることとなり、これまで構築された社会構造のもとで行ってきた様々な仕組みや取組みが大きな転換期を迎えています。

本市においても、人口減少・少子高齢化が招く様々な問題が顕在化し、また、市民の行政サービスに対するニーズも保健・医療・福祉分野の充実や、安全・安心な環境の整備を重視する傾向が強くなっています。

こうした内外の動向、社会情勢の変化に的確に対応しながら、市民・地域とともにまちづくりを進め、次世代に誇りを持ってつなぐため、今後のまちづくりの方向性とその実現に向けて行う取組みを明らかにする本市の最上位計画として、令和3年度を初年度とする新たな総合計画（東金市第4次総合計画）を策定したいと考えております。

つきましては、この総合計画の策定にあたり、標記事項について貴審議会の意見を求めるものであります。

## 5 答 申

### (1) 総論編・基本構想編についての答申

令和2年10月14日

東金市長 鹿 間 陸 郎 様

東金市総合計画審議会

会長 久 保 田 曄

#### 東金市第4次総合計画について（答申）

令和2年3月27日付け東企企第169号で諮問のありました掲題について、本審議会において慎重に審議を重ねた結果、別紙の東金市第4次総合計画総論編・基本構想編（案）を適当であると認めましたので答申します。

なお、本審議会においては、答申をまとめる過程で様々な意見交換がなされましたが、総合計画の策定にあたって、下記の事項について特に配慮いただき、目指すべき将来像に掲げた「豊かな自然と伝統を守り 未来へ続くMy City東金」の実現に努められるよう要望いたします。

#### 記

- 1 人口減少は、中長期的なまちづくりを考えていく際に最も大きな課題であることから、戦略的な施策を展開されるよう検討されたい。特に、東金市の次代を担う若い世代が、将来にわたり住み続けられるまちづくりに努められたい。
- 2 今後、基本計画を策定していくにあたり、東金市の特色を打ち出し活気あるまちづくりが進むような重点施策を検討されたい。その重点施策について、今後の東金市に必要な投資と考え、確実に実行するよう努められたい。
- 3 これからの行政には、以前に比べ複雑多岐な業務が求められ、行政のみの対応では限界があることから、市民と行政が目指す方向の意識を共有し、あらゆる主体による協働のまちづくりができるよう努められたい。また、市職員も発想の転換や新たな視点の意識をより高め、将来の希望が持てるまちづくりに努められたい。

## (2) 基本計画編についての答申

令和3年2月25日

東金市長 鹿間 陸郎 様

東金市総合計画審議会  
会長 久保 田 曄

### 東金市第4次総合計画について（答申）

令和2年3月27日付け東企企第169号で諮問のありました掲題について、本審議会において慎重に審議を重ねた結果、別紙の東金市第4次総合計画基本計画編（案）を適当であると認めましたので答申します。

なお、本審議会においては、答申をまとめる過程で様々な意見交換がなされましたが、今後、総合計画を運用していくにあたって、下記の事項について特に配慮いただき、目指すべき将来像に掲げた「豊かな自然と伝統を守り 未来へ続くMy City東金」の実現に努められるよう要望いたします。

#### 記

- 1 新型コロナウイルス感染症の流行に伴う健康や社会経済生活への影響は深刻であり、前期基本計画期間はコロナ禍からの復興を期する取組みが集中的に行われていくことが予測される。この社会情勢の急速な変化には、特に迅速かつ強力に対応するよう努められたい。
- 2 今後、デジタル庁の創設に伴い、国のデジタル化施策が急速に進展すると考えられる。他の自治体に先駆けて、高度デジタル通信環境等を導入することで、企業誘致や転入促進のインセンティブになることから、国の動きを注視し、いち早くデジタル化に取り組めるよう準備に努められたい。
- 3 経営重点戦略に位置づけられている企業誘致や産業用地整備などは、市単独ではなく国・県と連携して進めていく必要があると思われる。特に県とは密に連携し、現在、県が策定している千葉県総合計画とも施策の整合を図り、事業を推進するよう努められたい。

## 第3章

# 庁内策定体制及び策定経過

### 1 策定方針（平成31年1月策定）

#### （1）策定の必要性

昭和44年に改正された地方自治法により、市町村に基本構想の策定が義務付けられたことを受け、各市町村は「基本構想及びそれを具現化するための基本計画等（以下「総合計画」）」を策定していた。

本市においても、昭和46年に「東金市基本構想」、昭和61年に「東金市新総合計画」、平成13年に「東金市第3次総合計画」を策定し、長期的な視点でのまちづくりを行ってきたところである。

しかし、地方分権推進の過程において地方自治法が改正（平成23年）され、策定義務が撤廃されたことにより、基本構想の策定や議会の議決については、各市町村の判断に委ねられることとなった。

そのような流れの中において、今後の行政は、人口減少や少子高齢化、それらに伴う歳入の減少といった課題への対応が求められる一方で、人口構造の変化に伴って多様化する市民ニーズに対応していかなければならず、法的義務が無くなったとはいえ、市全体としての方向性を行政と市民がともに考え、納得のいく結論を共有する必要性は、これまで以上に高まっているものと考えられる。実際、法改正後も県内15市のうち14市\*で新たな基本構想を定めている。※ 企画課企画係調べ

そのため、第3次総合計画に引き続き、まちづくりの羅針盤となる新たな総合計画を策定する必要がある。

（参考：本市総合計画策定経過）

名称	計画期間
東金市基本構想	昭和46年度～昭和60年度
東金市新総合計画	昭和61年度～平成12年度
東金市第3次総合計画	平成13年度～平成32年度

#### （2）策定の根拠

前述のとおり、平成23年の地方自治法改正により、基本構想策定の法的義務がなくなったため、「東金市総合計画条例（仮称）」を制定し、策定の目的や議会の議決等を条例上に位置付けることで、策定の根拠を明確にする。

### (3) 総合計画の構成

総合計画は、本市における地域づくりの最上位に位置づけられる計画であり、基本構想・基本計画・実施計画で構成する。

#### ① 基本構想

今後、予測される環境の変化に的確に対応しつつ、市政運営を総合的かつ計画的に行うための指針となるものであり、まちづくりの基本理念と将来像を示すとともに、その実現に向けた施策の大綱を明らかにするものである。

基本構想は、概ね次に掲げる内容により構成するものとする。

- ・ 目標年度
- ・ 東金市の将来像
- ・ 将来人口
- ・ まちづくりの基本方向
- ・ 土地利用の考え方
- ・ 施策大綱
- ・ 構想の実現に向けて

#### ② 基本計画

基本構想に定めた将来像を実現するための重点施策及び重点事業の方向性を体系的に示すものである。

#### ③ 実施計画

基本計画で示した方向性に沿い、基本構想に定めた将来像を実現するための具体的施策を明らかにすることにより、総合計画の着実な実現を目指すもの

### (4) 総合計画の目標年次

「人口減少」や「少子高齢化」など、今後大きく変化することが予想される社会経済情勢の中で、基本構想に掲げた将来像への歩みを確実なものにするべく、次期総合計画の目標年次は、それぞれ以下のとおりとする。

- ① 基本構想 ⇒ 2021年度から2030年度までの10年間
- ② 基本計画 ⇒ 2021年度から2025年度までの5年間（前期基本計画）  
2026年度から2030年度までの5年間（後期基本計画）
- ③ 実施計画 ⇒ 基本構想・基本計画策定後に決定する  
（3年のローリングもしくは1年ごとを想定）

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
基本構想	←————→									
基本計画	←————→					←————→				
実施計画	←————→									

## (5) 策定にあたっての基本姿勢

次期総合計画の策定にあたっては、社会経済情勢の変化や将来の人口動向等を踏まえ、次の基本姿勢で策定に取り組む。

### ① 改革・前進のための計画作り

少子高齢化・人口減少・厳しい財政状況など、様々な制約がある中でも、「市民が明るく希望の持てる東金市」であるために、財政立て直しという「改革」と、政策推進である「前進」の両者を成し遂げるための計画となるよう努める。

### ② 市民との対話による計画作り

公募による「総合計画策定市民会議（仮称）」を設置するほか、地区別懇談会や市民アンケート、さらには Web や SNS を活用した意見の募集等を実施することにより、市民の声を尊重し、市民とともに作り上げる計画となるよう努める。

### ③ 職員の力を結集した計画作り

職員は政策推進・行政サービス提供における大事な戦力であり、財産であることから、全庁横断的な策定体制を構築するとともに、公募による庁内若手プロジェクトチームを立ち上げ、意欲ある若手職員の声を最大限に取り入れることで、各職員が持つ知識・経験を結集した実現性の高い計画となるよう努める。

### ④ 本市の強みを活かした計画作り

都心から 50 キロ圏に位置するという立地特性や、圏央道等の高規格道路や都心部への高速バスの開通という道路交通の優位性、さらには歴史・文化や自然資源など本市が持つ強みを最大限に活かした施策の展開が図れるような計画となるよう努める。

## (6) 策定プロセス

策定にあたっては、広範な視点から検討を行うため、総合計画審議会に諮問するとともに、市民との対話を通じて市民の意見を尊重しながら進めることとする。

また、庁内に設置した「総合計画策定会議」において検討を進める。

① 総合計画審議会

市議会の議員（議長及び各常任委員会委員長）、学識経験者、関係行政機関の職員及び公共的団体等を代表する者など 25 人以内で構成する市の付属機関である。

総合計画の策定に関する市長からの諮問に対し、助言・答申をする。

② 市民との対話

i) 総合計画策定市民会議（仮称）

市内在住・在勤・在学等の者の中から公募により集めた 20 人以内で構成する会議であり、市に対する提言を行う

ii) 地区別懇談会

市長とともに各地区に出向き、市民の生の声を聴く

iii) Web・SNS の活用

Facebook 等を開設し、幅広い方からの意見を聴く（コメント書き込み）

iv) その他

- ・市民アンケートを実施し、幅広い方からの意見を聴く
- ・城西国際大学との連携により、学生の柔軟な発想を取り入れる

③ 総合計画策定会議

⇒ 庁議メンバーにより組織するものであり、全庁的な総合調整などを行う。

なお、策定会議内に、以下の組織を置く。

i) 策定委員会

各課長等により組織するものであり、総合計画に関する基本的事項について調査し、策定作業の調整を行う

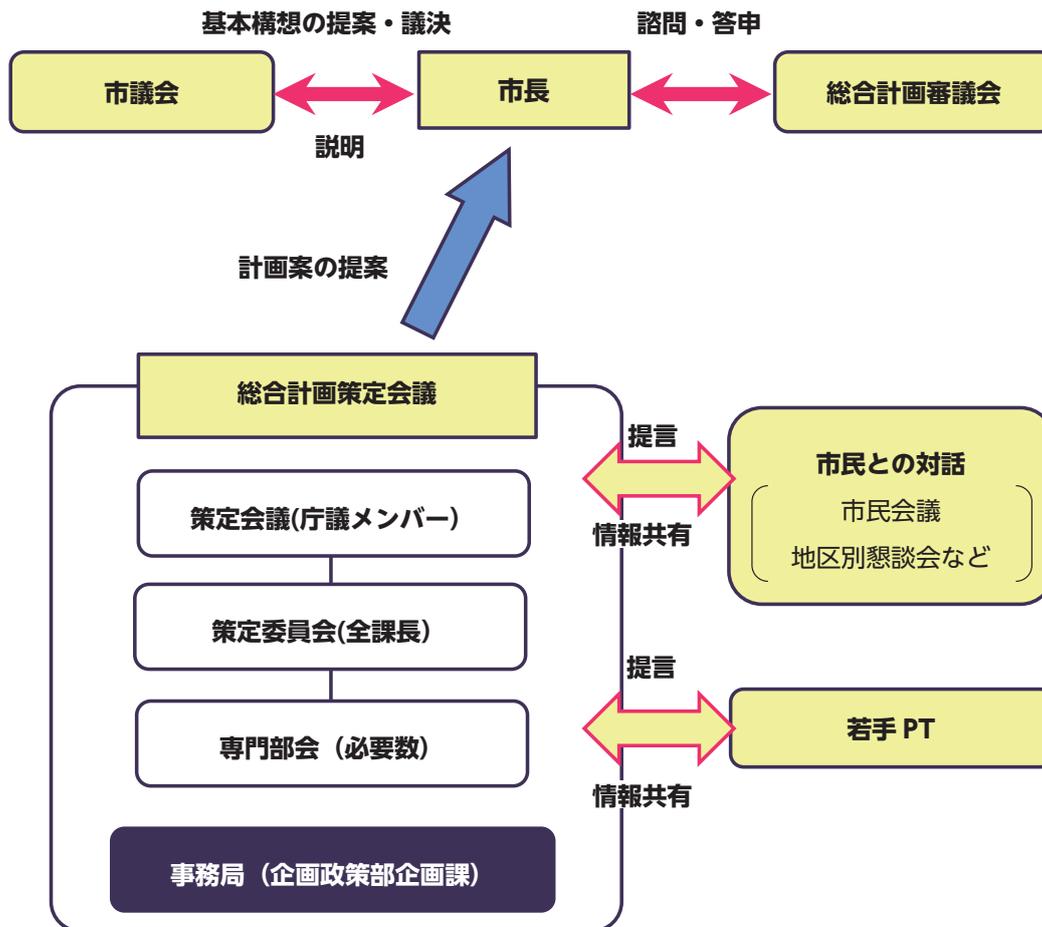
ii) 専門部会

策定委員会委員が指名した者により組織するものであり、総合計画に関する専門的事項について調査し、策定作業を行う

④ 庁内若手プロジェクトチーム（以下「若手 PT」）

概ね 40 歳以下の職員の中から意欲のある職員（20 名程度）を募り組織するものであり、「策定会議」に対し提言を行う

【イメージ図】



## 2 東金市基本構想を議会の議決すべき事件として定める条例

令和2年3月24日条例第1号

東金市基本構想を議会の議決すべき事件として定める条例

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第96条第2項の規定により、市の総合的かつ計画的な行政の運営を図るためのまちづくりの最も基本的な指針となる基本構想（次条において「東金市基本構想」という。）を議会の議決すべき事件とすることに関し、必要な事項を定めるものとする。

(議決事件)

第2条 議会の議決すべき事件は、東金市基本構想の策定、変更又は廃止とする。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

### 3 策定経過

H30.12.25	第1回策定会議 次期総合計画の基本的方向性について	R2.3.12 ～3.17	全庁作業 基本構想（諮問案）の修正作業
H31.1.15	次期総合計画策定に係る職員説明会 計画策定の背景・市の置かれる状況、 次期総合計画の策定方針について	R2.3.19	第10回策定会議 基本構想（諮問案）について
H31.1.21	第2回策定会議 地区別懇談会、若手職員プロジェクト について	R2.3.23	東金市基本構想を議会の議決すべき事 件として定める条例の制定
H31.1.28	次期総合計画策定方針の決定	R2.3.23	市議会 全員協議会 基本構想（諮問案）、地区別懇談会に ついて
H31.2.20	市議会 全員協議会 次期総合計画策定方針について	R2.3.27	総合計画審議会へ諮問
H31.4.22	第3回策定会議 次期総合計画策定スケジュール、地区 別懇談会、若手職員プロジェクトチー ム、策定市民会議について	R2.8.17 ～8.25	全庁作業 基本構想（基本施策案）の修正作業
R1.7.1	第4回策定会議 地区別懇談会、若手職員プロジェクト チーム、策定市民会議について	R2.8.27	第11回策定会議 基本構想（案）について
R1.7.4	若手職員プロジェクトチーム設立 R1.12.18まで全6回開催し、目指す べき将来像などについて検討	R2.9.4 ～9.7	全庁作業 基本構想（案）の修正作業
R1.7.24 ～8.9	市民アンケートの実施	R2.9.18	市議会 全員協議会 基本構想（案）について
R1.7.25 ～8.8	全庁作業 各部署で第4期基本計画「現計画達成 状況調査」を作成	R2.10.5	第12回策定会議 基本構想（案）について
R1.8.28 ～8.30	全庁作業 次期総合計画策定について、現行計画 の現況・評価にかかる各部署のヒアリン グ	R2.10.14	総合計画審議会より基本構想について 答申
R1.11.20	第5回策定会議 基本構想（骨子案）について	R2.10.14 ～11.13	基本構想（案）について市民へのパブ リックコメントの実施
R1.11.25	第1回策定委員会 基本構想（骨子案）について	R2.10.16 ～11.6	全庁作業 各部署で前期基本計画策定のための 「基本計画シート」及び「事業洗い出 しシート」の作成
R1.11.25 ～12.2	全庁作業 基本構想（骨子案）について修正作業	R2.10.19 ～10.23	全庁作業 各部署（係長相当職）に対して基本構 想の説明
R1.12.11	第6回策定会議 基本構想の構成案（基本理念・施策大 綱等）、地区別懇談会について	R2.11.16	第13回策定会議 前期基本計画（案）について
R1.12.19	市議会 全員協議会 基本構想の構成案（基本理念・施策大 綱等）、地区別懇談会について	R2.12.3 ～12.21	全庁作業 前期基本計画（案）の修正作業
R1.12.19 ～R2.1.10	全庁作業 第3次総合計画の総括（案）について 修正作業	R2.12.17	基本構想の議決
R2.1.20	第7回策定会議 地区別懇談会について	R2.12.17	市議会 全員協議会 前期基本計画（案）について
R2.2.7	第8回策定会議 総合計画審議会について	R3.1.8 ～1.15	全庁作業 前期基本計画（案）の修正作業
R2.3.12	第9回策定会議 基本構想（諮問案）について	R3.1.29	市議会 全員協議会 前期基本計画（案）について
		R3.2.5 ～3.6	前期基本計画（案）について市民への パブリックコメントの実施
		R3.2.25	総合計画審議会より前期基本計画につ いて答申
		R3.3	前期基本計画の策定

# 東金市第4次総合計画

令和3年3月

発行 東金市

企画・編集 東金市 企画政策部 企画課

〒283-8511 千葉県東金市東岩崎1-1

